

# ひとひと 女と男の 人生劇場

講演後のスタッフによる寸劇では、未だ私たちの意識や社会の中にある「男はこう、女はこう」という考え方について、誕生から進学、就職、介護まで、人生における4つの場面を通じて問題提起しました。

寸劇終了後は、寸劇のテーマをもとに、家庭・職場・社会の3つの分科会が行われました。



へえー、今どき古いこと言うねえ

うちの親「女の子は短大で十分!」ばんで言うのよ~



長男の嫁の運命だと思ってあきらめてくれよ

そんなあ~



妻に育児休業取ってほしいって言われてるんだけどさ...

一緒に入社した男性はもう昇格してて給料も高いんだよね...



えーっ

うちの娘、長男に嫁いだんだけど女の子が生まれたら「次は男の子ね」って言われたんだって...

## 分科会参加者の声

### 社会編

- 子どもがいると就職できないという環境を変えていきたい。
- お互いの生き方を尊重することが大切だと思う。
- 男だから、年上だから、とか、目に見えない差別を感じることもある。
- 女だから、男だからではなく、一人の人間として、という見方、考え方を大切にしたい。
- 対等であるということは、お互いに責任と義務が伴うということ、男女ともに自覚する必要がある。

### 家庭編

- 「食事の支度は女の仕事」と家の男たちは考えていて、台所に立たない。
- 夫は「男だから泣くな」と言われて育ったらしく、自分の子どもにはそういうことは言わない。
- 夫に育児休暇を頼んだが、復帰後のポジションが心配と言われた。女性だって、子育て後の仕事への復帰はもっと心配だ。
- 乳児を受け入れる保育園が少なく、個人のベビーシッターを探してやっと職場復帰できた。夫は協力的だが、家庭内だけでは対応できない。

### 職場編

- 男性が育休を取得しようとする、「お前が生むわけでもないのになぜ?」という雰囲気、50~60代の男性の中にある。
- 育休制度があっても利用できない、利用しづらい状況を変えるために、どのようにしていくべきかを考える必要がある。
- 中小企業は会社を運営していく上で余裕などないところが多く、育休を取らせたくてもなかなか難しい。
- 育児休業ばかりではなく、女性ももっと働きやすい環境づくりも大切。

## お知らせ

### 男女共同参画基本計画を策定中

市では、男女が対等なパートナーとして生き生きと暮らすことのできる活力あるまちを、市・市民及び事業者が連携・協働しながら築くための具体的な指針となる男女共同参画基本計画「パートナーシップ創造プラン・はなまき」を策定中です。

策定後は、計画に基づき、各種施策を実施していくこととなりますが、計画の内容については、各世帯にお届けするダイジェスト版でお知らせする予定です。

ひとりで悩んでいませんか?

### 配偶者や恋人からの暴力(DV)相談機関・窓口

◇岩手県福祉総合相談センター	019-629-9610
◇岩手県男女共同参画センター	019-606-1762
◇もりおか女性センター	019-604-3304
◇盛岡地方務局	
「女性の人権ホットライン」	019-626-2659
◇花巻警察署生活安全課	23-0110
◇花巻市役所児童福祉課	24-2111(内線507)
男女共同参画・交流課	22-2217

秘密は守られます。ひとりで悩まずご相談ください。

発行 花巻市政策企画部男女共同参画・交流課

〒025-8601 花巻市花城町9番30号  
TEL/0198-24-2111(内線420)  
FAX/0198-22-6995  
E-mail/danjo@city.hanamaki.iwate.jp  
HP/http://www.city.hanamaki.iwate.jp/shisei/

●We(ウィー)への意見・感想などをお寄せください。

編集 男女共同参画情報紙編集委員  
表紙イラスト 大越 佳代子さん



男女共同参画社会の実現に向けて

vol. 2

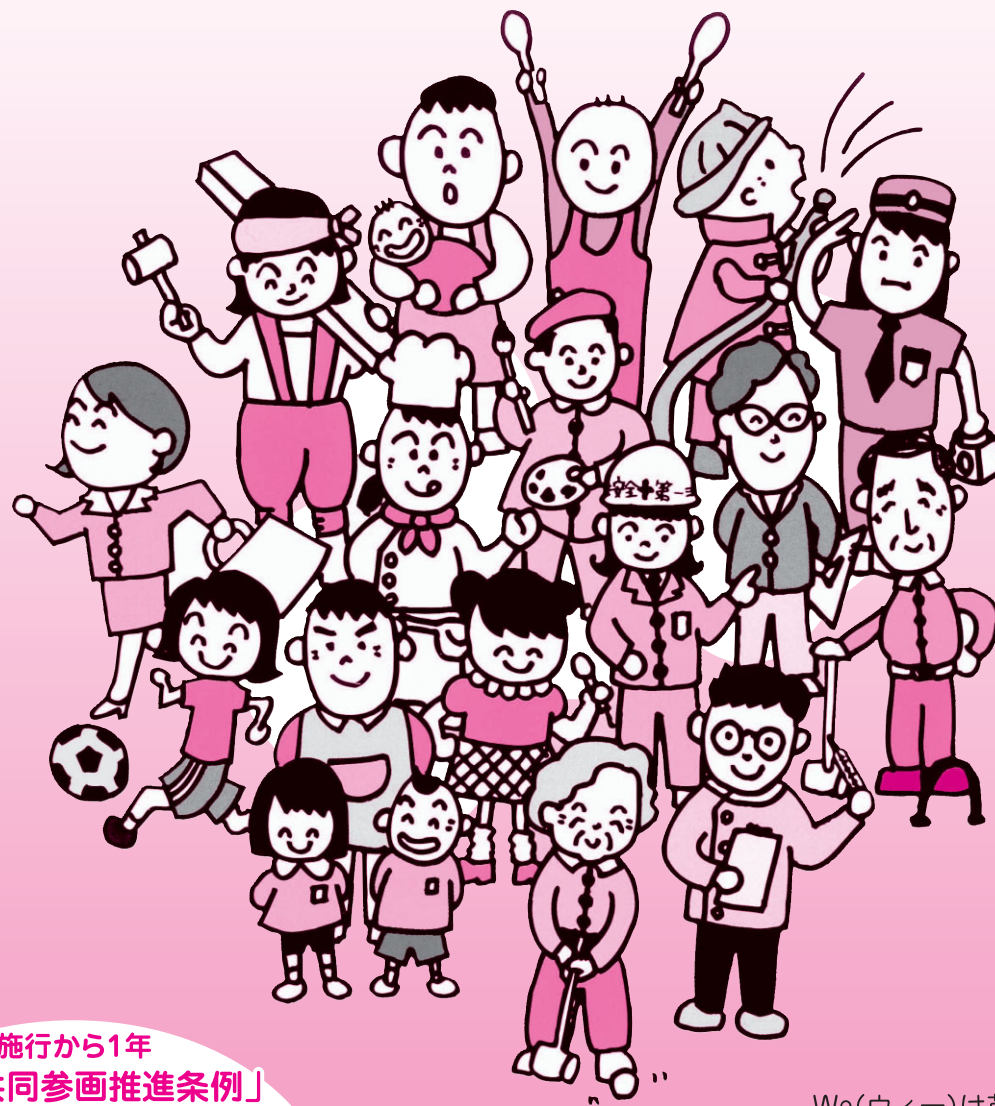
平成19年 3月

はなまき

— 特集 —

## 『わたし』を生きる...それぞれが自分色に輝くとき

~男女共同参画推進フォーラム 落合恵子さん講演より~



### 施行から1年 「男女共同参画推進条例」

花巻市男女共同参画推進条例が施行されてから1年が経ちました。市ではこの1年、男女共同参画について理解を深めていただくために、パートナーシップ創造講座やフォーラムの開催、広報での情報提供、推進員の設置などを行ってきました。今後も、新たに策定される「花巻市男女共同参画基本計画」に基づき、男女共同参画を推進していきます。

We(ウィー)は英語で「私たち」という意味。

男女共同参画社会の実現に向けて「私たちみんなで考え、みんなですすめていきたい」

そんな願いを込めて「We」と名づけました。

## 私たちのゴール

男女共同参画社会、文字にするととても硬いものがありますが、それぞれがそれぞれの色に輝いて生きていくという、今日の講演のサブタイトルそのものが、私たちのゴールだと思っています。同時に、差別やいじめ、そういったことを可能な限りなくしていく。それも、私たちがそれぞれの色に輝くために大切なひとつのテーマだと思っています。



## 加齢はマイナス？

私たちの社会は、年を重ねることをマイナスなことと捉えがちな風潮があります。でも、私はそうは思わない。白髪もしわもシミもくすみもたるみも全部ひっくるめて私が私を生きてきた証。年を重ねることによってもちろん失うものは多くあるけれど、でも人生の景色は広がります。深まっています。

## 自分を縛っている鎖

自分で自分を縛っている鎖、同時に社会・文化がその人を縛っている鎖は、色々ありますーエイジズム(年齢差別)、レイシズム(人種差別)、セクシズム(性による差別)、エイブリズム(健常者中心主義)ーなど。自分が輝いていくためには、自分でそれらの鎖を断ち切る必要があるし、「社会・文化」という、私たちを外側から縛っている鎖からも解き放ってあげる。これは、男女共同参画社会を考える上での大切なテーマであると言えます。

## 人権とは 誰の足も踏まないこと

人権について、私は次のように説明することがあります。  
「人権とは、誰の足も踏まないこと。そして、誰にも自分の足を踏ませないこと」  
この場合の「足」とは、「その人」という存在そのもの、あるいは「尊厳」そのものとも言えます。  
子ども時代に豊かな人権意識を身につけた人は、素敵なお大人になると私は確信しています。

## 母は「シングルマザー」だった

22歳で私を産んだ母は結婚をしていませんでした。最近の言葉で言えば「シングルマザー」です。その子どもである私は、法的にいう「非嫡出子」、正当な生まれでない子と呼ばれる側の人間として登録されました。15歳のとき母に聞きました。「お母さん、なぜ私を産んだの？」随分な言葉ですが、私を産んだことによって母はずっと後ろ指を指され、故郷を出なければ生きていくことができなかった。将来の夢も全部諦めなければならなかった。

母はこう言いました。「みんなから反対された。でもお母さん、どうしてもあなたが欲しかった。最初からお父さんのいない子にしちゃって申し訳ないと思う。でも、願わくば、自分が差別される側の一人として生まれたことを大切に、世の中にある色々な差別とちゃんと向かい合える子になってほしい。あなたが生まれた日、お母さんあなたを抱いて『生まれてきてくれてありがとう』って言ったのよ」

ちょっと照れちゃうけど、『生まれてきてくれてありがとう』って言葉、ずっと残っています。

昨年11月25日、合併後初めての花巻市男女共同参画推進フォーラムが、文化会館を会場に開催され、約600人の市民が参加しました。基調講演では、作家の落合恵子さんが、自分の生い立ちや母親の介護の体験を通して、人権や男女共同参画について話されました。今号のWeでは、フォーラムの内容について、落合さんの講演を中心にお伝えします。



落合 恵子さん (作家・東京家政大学特任教授)  
1945年、栃木県宇都宮市生まれ。民放アナウンサーを経て、人権・教育・環境・介護の問題などをテーマとした執筆活動を行う。子どもの本の専門店「クレヨンハウス」のほか、女性の本の専門店やオーガニック食材の店などを主宰。

## 「ダブルスタンダード」

私たちの社会には、男性に適用されるモラルと、女性に適用されるモラルが別々になっていることがあります。それを「ダブルスタンダード」と言います。  
例えば、配偶者を亡くした人が5年後に再婚する。男性だったら「今まで頑張ったんだもんね、おめでとう」となるのに、これが女性の場合、多くは「まだ5年も経っていないのにね…」となる。  
何で違うの？ 私たちの社会には「二重の基準(ダブルスタンダード)」が山ほどあります。

「わたし」を生きる  
：それぞれが自分色に輝くとき

—落合恵子さん講演より—



平成18年度 花巻市男女共同参画推進フォーラム基調講演

## さまっ 瑣末な事の積み重ねが 文化を創る

男女共同参画社会は、何かを考えるときの基準に、「男だから、女だから」「女のくせに、男のくせに」といった性別が入る考え方ではなく、もっとそれぞれの適性を大事にしていく、一人ひとりを見ていく。例えば、「男だったら何色、女だったら赤」ではなく。  
瑣末な事のように聞こえますが、瑣末な事の積み重ねが私たちの文化を創るんです。だから、大切なんです。

## 男性が 介護に加わったとき

知人の男性の話です。  
彼の父親は83歳。そこら中に粗相をするようになった。元気な頃の父を知る息子としては、とてもショックだった。頭では理解できても心が拒絶する。しばらくは立ち直ることができなかった。  
ある時彼の妻が訴えた。「私、できる限り頑張るよ。でもこのままじゃ私、倒れてしまう。まずはあなたが生活を変えて下さい。あなたの父親なんです。介護にもっと時間を取って下さい」  
後に彼はしみじみ言いました。「言葉にしてもらって良かったと思っています。少しでも積極的に父を介護していく中で、男に向かない仕事なんてないということがわかった。そして、このことは、男だからできないと思って何もしなかった人生よりも、はるかに深く素晴らしいものを自分にもたらしてくれたと思います」と。



## 男女共同参画社会は

今、年間で約3万3千人が自らの命を絶っている時代です。男性のほうが多いです。男は男らしく、という掛け声の下に、どれだけ疲れている男性がおられるのかー。  
男女共同参画社会は、女性の権利だけを伸ばすのではない。男性も女性も、誰もが自分色に輝く。家庭生活や職場の生活、地域社会においてもです。それを実行していくためのひとつの道、という言い方もできるでしょう。

## 参加者の声

- ★子どもは父母の関係を見て育つものだから、父母の間で方針を決めて、性別というより「人」という視点で接することが大事な気がする。
- ★男女共同参画、というのは、男と女の問題だけではなく、子どもも障害者も健常者も、いろんな立場の人が関係していることなのだと思います。
- ★男女共同参画推進の企画、もっと男性の参加があってもいいのではないのでしょうか。
- ★男女共同参画は若い人たちのものと思っていたけれど、70代の私たちにも関係あることだと感じた。
- ★なかなか難しい。家庭においても、職場社会においても、意識が育っていないことを強く感じます。
- ★人権教育は子どもの頃からさせるのが大事なのだと感じた。
- ★とても深く、女性差別を考えさせられた。馴れ合いでいた多くの事柄を見直していけば、もっと生き易くなることを感じた。
- ★女性の立場はまだまだ弱いと思うし、男性の理解度も低いと思う。もっとこの事業を普及させて、子どもを育てながらも仕事を続けられる環境を整えてほしい。